



2019. 6. 18

藤島高校図書委員会

## 読書界 6 月号

### テーマ 「衝撃を受けた本」

『リバーズ』 湊かなえ 講談社文庫

「深瀬和久は人殺しだ。」 恋人のもとに届いたのは、自分を人殺しだと告発する手紙だった。とうとう、「あのこと」を打ち明ける時がきた。主人公である深瀬は、話し始める。数年前に親友を襲った事故のことを。そして、その真相を。

あの日の真実を知る告発犯は、誰なのか。そして、親友、広沢を殺したのは、いったい誰なのか。明かされる真実。そして。ラストの一行、あなたはきっと衝撃を受ける。

読み返し必須のミステリー長編。

1-9 西川果純

『ウソを見破る統計学』 神永正博 講談社ブルーバックス

——「世の中には3種類の嘘がある。嘘、大嘘、そして統計だ。」——これはイギリスの首相であったベンジャミン・ディズレーリが言ったとされる言葉である。それほど統計が嘘にまみれているということである。

本書ではそんな嘘まみれの統計のからくりを、難しい数式を一切使わずに紹介してくれている。検定、カイ二乗、正規分布。このような理解するのが難しそうな単語もわかりやすく解説してくれる。これを読むと統計が疑わしくなるかもしれない。

2-5 藤村佳輝

『火のないところに煙は』 芦沢 央 新潮社

小説家の「私」のもとに友人から怪談話が舞い込んでくる。その友人には広告代理店で仕事をしている友人がいるのだが、彼女の作った広告にだけ血のような「染み」が出来るというのだ。その染みには恐ろしいメッセージが込められていて……。

この事件をきっかけに「私」は沢山の怪異に巻き込まれていく。全てはあるひとりの人物に繋がっていて……。

読み始めたら止まらない、新感覚ホラーミステリー！ あなたは衝撃の結末を知るまで、ページをめくる手が止められないだろう。

3-4 中西美沙